

## 祖父の死 尊厳ある最期とは

学生 根岸 哲也19 (さいたま市南区)

4月末に祖父が亡くなった。昨年秋季に脳出血で倒れ、寝たきりの状態で約半年間入院していた。倒れた当初から意思の疎通はできないうえに、鼻から直接胃に管を通して食事を与えられていた。亡くなる3日前にお見舞いに行った際には、酸素吸入をしていて、苦しそうで見ているのも耐えがたかった。

祖父は倒れる前から「寝たきりになりたくない」ほ

っくり死にたい」とよく話していたが、現実にはその願いをかなえてあげることができなかった。日本の法律では、尊厳死を認められていないからだ。延命治療を受けないと意思表明し、家族が同じ考え

であっても、医師の立場では延命治療を行わなければならない。また、家族の金銭的な負担もさることながら、多額の医療費は健康保険でまかなわれている。僕たち若い世代にとっても

あまり関係ないものと思っていた尊厳死だが、身近な祖父の死に直面し、もっと自分たちが議論すべき問題であると痛感した。



みんなの広場

